岐宿茶園遺跡

古代の居住地の跡

この少なくとも紀元前 9 世紀以前に存在していた集落跡は、福江島北部の鰐川の河口付近にあります。大量の貝殻を除けば、今日ここにはほとんど何も残っていません。遺跡の名前は、遠い昔ここで茶が栽培されていたという事実に由来しています。

岐宿町教育委員会は 1997 年にこの遺跡を発掘調査し、複数の異なる年代に属する地層を発見しました。最上層では縄文時代（紀元前 10,000—紀元前 300 年）初期の遺物が見つかり、下部からは後期旧石器時代に作られたナイフ形石器と呼ばれる丁寧な削られ驚くほど切れ味の良い黒曜石の道具が発見されました。これは、九州における縄文時代以前のナイフ形石器の製作技術の発展を示す重要な発見でした。